

7 平成 22 年度 事業のまとめ

(1) 利用者にとってより便利で快適な図書館を目指します

ア 身近な公共施設での図書の貸出・返却取次サービスの実施(図書取次サービス事業)

区役所連携事業として平成 17 年 12 月に開始した図書の貸出・返却取次サービスを引き続き実施しています。平成 23 年 4 月から二俣川駅・東戸塚駅の行政サービスコーナー内の図書取次コーナーが、横浜市図書館情報システムとオンラインでつながり、登録の更新ができるようになりました。

【平成 22 年度利用実績】

区	場 所	実施内容	延利用数		
			利用者(人)	貸出(冊)	返却(冊)
旭	二俣川駅(相鉄線) 行政サービスコーナー	貸出・返却	34,095	54,134	88,547
戸塚	東戸塚駅(JR線) 行政サービスコーナー	貸出・返却	71,791	115,547	147,451
金沢	金沢文庫駅(京急線)	返却ポスト			63,747
青葉	美しが丘西地区センター	貸出・返却	7,988	13,114	14,157
	大場みずが丘地区センター	貸出・返却	4,276	6,926	7,122
	奈良地区センター	貸出・返却	8,903	14,580	18,646
	藤が丘地区センター	貸出・返却	11,976	19,847	17,442
	若草台地区センター	貸出・返却	9,171	15,662	14,220
	田奈ステーション (区民交流センター内)	貸出・返却	7,727	12,572	11,460
	青葉台コミュニティハウス	貸出・返却	5,207	8,948	6,960
	市が尾駅(東急線) 青葉台駅(東急線) たまプラーザ駅(東急線)	返却ポスト			188,229
図書取次サービス事業総計			161,134	261,330	577,981

※ 青葉台コミュニティハウスでの図書取次サービスは平成 22 年 4 月 20 日から開始。

イ 利用者の要望の把握(広聴事業)

平成 22 年度に「市民からの提案」などに寄せられた図書館に関する意見・提案は 254 件でした。主な内容は、件数の多い順に、施設に関すること(53 件)、図書館建設・充実に関すること(31 件)、図書の予約に関すること(25 件)、図書の貸出・返却に関すること(23 件)、蔵書の充実・資料収集に関すること(18 件)となっています。

項 目	内 容	件数	主な意見・要望等
図書館の管理・運営 に関すること	施設	53	駐車場の利便性向上、快適な空調
	図書館建設・充実	31	図書館の新設整備
	サービスポイント	17	地区センター等での図書取次の拡大
	開館日・開館時間	9	開館日・開館時間の拡大
	その他	30	ホームページの改善
図書館サービスに 関すること	図書の予約	25	予約冊数制限の緩和
	貸出・返却	23	未返却利用者へのペナルティ
蔵書に関すること	蔵書充実・資料収集	18	学術書などの充実
	資料管理・書架管理	10	汚破損図書の確認・修理
	その他	14	寄贈図書の受入、視聴覚資料の提供
職員に関すること	市民応対	16	窓口や電話での応対の改善
その他		8	マナーが悪い利用者への対応の改善
合 計		254	

(2) 市民が必要とする資料・情報を収集します

ア 蔵書再構成5か年計画を策定しました

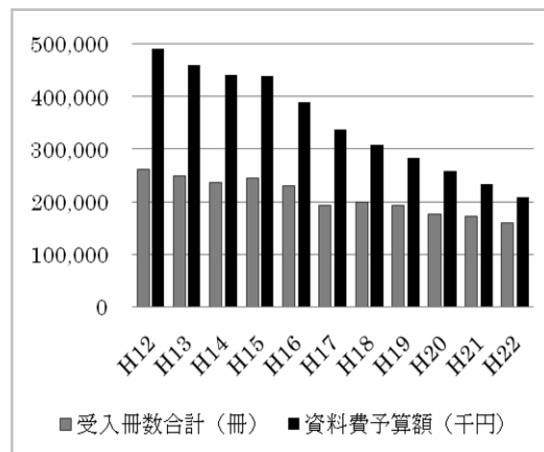
平成23年1月に策定した「横浜市立図書館アクションプラン」の重点取組事項となっている、市立図書館全体の蔵書再構成を実現するため、今後5か年の具体的な計画を策定しました。

近年の社会情勢の変化により、市民の情報要求がますます多様化・高度化し、収集すべき資料が増加する一方で、資料購入費は減少しています。こうした現状を踏まえ、図書館が目標とするサービスを提供するため、より有効な資料収集と資料管理を行い、市立図書館の核となる蔵書を再構成していきます。

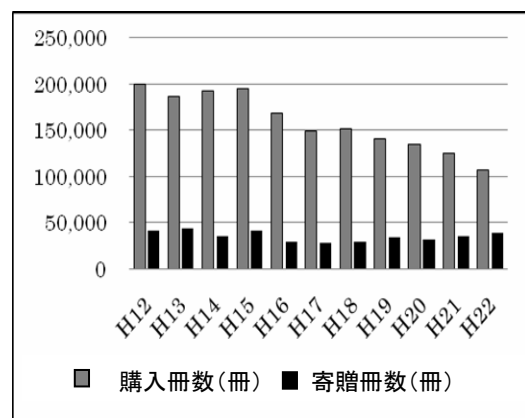
平成22年度については、シリーズ本や参考資料の購入推進による蔵書の補強及び寄贈受入の強化を中心として計画の実施にあたりました。

イ 図書の寄贈を広く募りました

図書館では、財政状況が厳しい中、人気作家の小説や話題書、ロングセラーの児童書、郷土資料などを中心に本の寄贈を募り、蔵書の充実に努めています。平成22年度は、新たな取組として横浜市職員に対して図書寄贈の広報を実施し、1,487冊の寄贈がありました。また、平成21年度に発表した「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」掲載図書を対象に、市民の皆さま及び企業・団体等からの寄贈を募るキャンペーンを実施し、たくさんのご協力をいただきました。



【受入冊数・資料費推移】(『横浜市の図書館』『日本の図書館 統計と名簿』より)



【購入冊数・寄贈冊数推移】(『横浜市の図書館』より)

(3) 市民と情報を結び付けます

ア ホームページの充実に努めます

中央図書館では、貴重資料のデジタル化を継続的に進め、電子図書館「都市横浜の記憶」の内容の充実に努めています。

平成22年9月から、洋学・聖書コレクション約350点が電子図書館「都市横浜の記憶」で閲覧できるようになりました。このサイトには、中央図書館が所蔵する資料のうち、主に明治期に発行された英語を中心とした語学書・辞書等約150点と、明治期から大正期に発行された聖書及びキリスト教関連書等約200点が公開され、全文閲覧できるようになっています。



電子図書館「都市横浜の記憶」は平成17年に開設

【図書館ホームページ アクセス件数】

(件)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
図書館ホームページ ※蔵書検索ページアクセス数を除く	5,033,996	5,983,939	6,387,885	8,152,936	8,070,147
図書館蔵書検索ページ (検索回数)	5,882,168	6,734,980	7,865,861	8,800,644	9,622,859

イ 市民の学び・調査研究や課題解決への支援に努めます

図書館では、窓口や電話、Eメールで毎日多くの方から問い合わせや相談を受け、必要な図書や情報を探し出すお手伝いを行っています。

(ア) 国立国会図書館「レファレンス(※)共同データベース」への事例の提供を行いました

図書館に寄せられた多くの質問の中から、ほかの方が調べる際にも参考になりそうな事例を国立国会図書館「レファレンス共同データベース」(国立国会図書館が全国の公共図書館等と共同で構築しているデータベース)に提供しています。平成22年は事例提供数が1,477点、アクセス数が126,648件に及び、平成21年に引き続き、国立国会図書館から「御礼状」をいただきました。

※ レファレンス…利用者の調べものや資料の相談などに対し、必要とする図書館資料の紹介や提供、情報入手の手助けを行うこと。

(イ) 「調査のミカタ」シリーズを発行しました

所蔵目録や特定のテーマについて資料を紹介するテーマリストなどを「調査のミカタ」シリーズとして発行しています。併せて、図書館ホームページ上の「調査のミカタ」にも掲載し、課題解決のための情報提供に努めています。

【「調査のミカタ」シリーズ(平成22年度発行/改訂分)】

■テーマリスト

地球温暖化を考える2010
キャリアデザインを考えるための30冊
ワークライフバランスを実現するための15冊
食育を考えるための16冊
認知症について知る〈改訂〉

■所蔵目録

教科書目録(小・中・高・特別支援)〈改訂〉
聖書・洋学マイクロフィルム目録
法情報コーナー資料目録

(ウ) 「PORTA」(国立国会図書館デジタルアーカイブポータル)と連携しました

平成22年度は、国立国会図書館が提供するデジタルアーカイブの統合検索システム「PORTA」と連携しました。この連携により、より多くの利用者に電子図書館「都市横浜の記憶」(p.34参照)に収録されている貴重資料を閲覧する機会を提供できるようになりました。

(エ) 「図書館・公民館海援隊」プロジェクト(※)に参加しています

中央図書館では平成22年2月から「図書館・公民館海援隊」プロジェクトに参加しています。平成22年度は、次の事業を「図書館海援隊」の活動に関連付け、企画・実施しました。



事業名	実施期間または日程
展示「あなたの知らない自殺のこと」	9月7日～9月20日
展示「みんなで知ろう!認知症 ～認知症について理解する、介護者を支える～」	10月13日～11月29日
講演「認知症対応 プラスαの仕事術」	10月21日
講演「男たちのカ・イ・ゴ ～介護者を地域で支えよう～」	11月16日
講演「教えて!人生のあれこれ対処法 ～くらしまもるさんの一生～」	2月11日
展示「震災・防災関連情報」	3月16日～3月31日
震災・防災関連リンク集	3月22日公開

また、図書館ホームページで「暮らしや仕事に関する困りごとの解決に役立つ関連機関へのリンク集」を掲載するなど積極的な取組を行っています。

これらの活動は、『文部科学時報』（2010年6月号）の「困ったときには図書館へ」欄に「市民サービスの最前線から多重債務・自殺対策を考える」と題して紹介されました。

※ 図書館・公民館海援隊プロジェクト…文部科学省の呼びかけにより、課題解決支援サービスの一環として、貧困・困窮者に対する支援を実施している有志の図書館・公民館が集まったプロジェクトです。

【参考：文部科学省ホームページ】

「図書館・公民館海援隊プロジェクト」http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kaientai/1288450.htm

(オ) “調べ方のコツ”をご案内する情報検索講座を実施しました

情報を探索する技術を学べる機会を提供するため、司書が講師となり、本とインターネットの両方を使った“調べ方のコツ”をご案内する情報検索講座を実施しています。平成22年度は、「医療情報を調べる」「新聞の情報を調べる」をテーマに、図書資料とWebサイトをご紹介する講座を実施しました。情報源の使い分けのポイントなど、情報検索のコツを案内し、インターネットなどの身の回りの情報やデータベースも含めた図書館資料の活用方法をご紹介しました。

(カ) ビジネスに役立つ情報を提供します

中央図書館では4階「ビジネス資料コーナー」「法情報コーナー」を中心に、企業名鑑や専門書、実務書など、ビジネスに役立つ資料を各種取り揃えているほか、3階「PCリサーチコーナー」では、新聞記事や企業情報、業界動向を検索できるオンラインデータベースやインターネット用端末を設置し、ビジネスに役立つ情報を提供しています。

なお、平成22年7月から、横浜市のビジネス街であるみなとみらい地区にビジネス書等を積載して移動図書館の巡回を開始しました。昼休みのビジネスパーソンを中心に好評をいただいています。

ウ 行政への支援（庁内情報拠点化事業）を行います

平成11年度に開始したこの庁内情報拠点化事業は、図書館による行政支援サービスとして、全国的にも先駆的な事業です。市役所内部での図書館に対する認識を高め、図書館サービスの充実につなげることで、市役所が行う業務を支援することにより、市民に対する間接的な図書館サービス提供であると位置づけ、実施しています。

【庁内情報拠点化事業利用実績】

区分	業務用資料貸出		レファレンス受付		ブックリスト作成	
	対象区局数	利用実績	対象区局数	利用実績	対象区局数	利用実績
平成20年度	37	1,308冊	31	403件	1	1件
平成21年度	36	1,534冊	35	304件	1	2件
平成22年度	45	1,378冊	39	303件	1	5件

■ ブックリスト（平成22年度作成実績）※ 全て総務局に提供

リスト名	リスト名
ワークライフバランスを実現するための15冊	働き方・ビジネスマナーを身に付ける
キャリアデザインを考えるための28冊	新たに係長になった方にお薦めする本
パソコンスキル・文章力を身につける	

エ 広報活動を通じた情報発信を行います

図書館情報紙「@Lib」を毎月発行し、図書館情報の発信に努めました。また、記者発表などを通じ、積極的な情報提供に努めました。

記者発表件数は54件（平成21年度43件）、新聞・ミニコミ誌・ラジオ等のメディアで報道された件数は284件（企画運営課掌握分・平成21年度200件）でした。



(4) 国民読書年事業をはじめとした企画事業を実施しました

(詳細は、「5 平成22年度利用統計(9)企画事業、その他の事業」(P.22 参照))

ア 国民読書年事業

市立図書館の国民読書年オリジナルキャラクター「本の虫」の活用、及び国民読書年ホームページ「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開設して事業を推進しました（ホームページ開設期間7月2日～12月28日）。

図書館ホームページ又は図書館の窓口で「本の虫宣言」をすると缶バッジをプレゼントするキャンペーンを行い、宣言総数は14,260件に達しました。ホームページでは、横浜ゆかりの著名人による本の紹介や、ブックカバーのダウンロードなども行い、秋には統一キャンペーンも行いました。



イ 統一キャンペーン

平成22年度も統一キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは、未利用者へのPRを視野において、全館で時期を合わせて行事を企画・実施し、統一的な広報に取り組むものです。

子どもとその保護者を対象にした『子ども読書の日（4月23日）イベント』（4月23日～5月5日）では特別おはなし会を全館で実施したほか、夏休み期間には統一のキャッチコピー『夏休みはとしょかんへ！本を読もう、楽しく読もう～今年国民読書年～』（7月17日～8月31日）のもとで事業を行いました。秋には『国民読書年事業～ヨコハマ、本の虫宣言～』（10月1日～11月30日）を行いました。記念講演（11月27日、中央図書館）や郷土に関する歴史講座（神奈川・港南・金沢・山内・都筑図書館）やパネル展（港北図書館）などを実施しました。

ウ APEC巡回展

2010年日本APEC横浜開催巡回展「ようこそAPEC図書館で知るアジア太平洋」を開催しました。横浜で開催された2010年日本APECを盛り上げるため、7月から11月まで市立図書館全館で、参加国・地域の社会や文化、アジア太平洋地域の経済協力や貿易に関する図書のほかAPECについて紹介したパネルなどの巡回展示を行いました。会場では、参加国・地域の大使館、外務省などから寄贈を受けたパンフレットなどの配布を行い、好評をいただきました。また、APEC関連講演会を開催しました（11月3日、中央図書館）。



APEC巡回展(瀬谷図書館)
図書とともに関連地域の人形も展示
(協力:横浜人形の家)

エ その他の事業



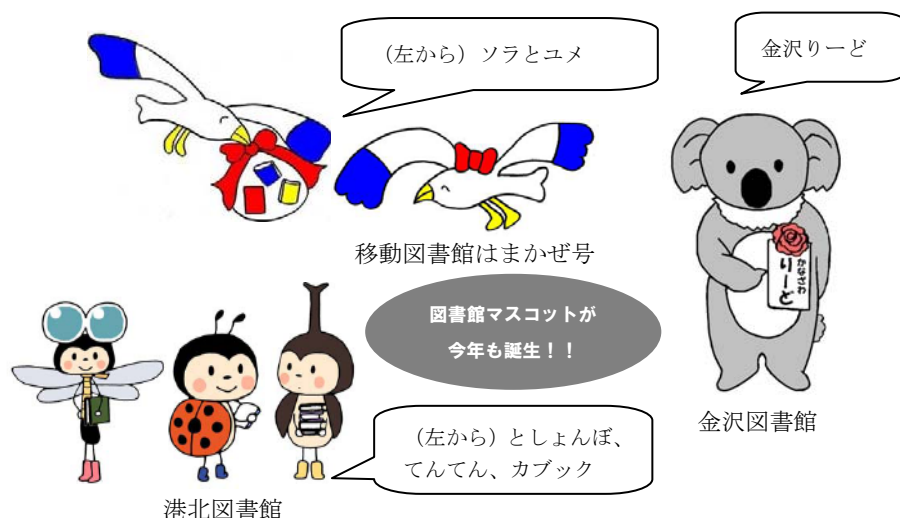
「緑図書館開館 15 周年記念 子ども講演会『鉄道を知ろう！～きょうからきみも鉄道はかせ』」JR 駅員の方を講師に迎えて開催しました



「関東大震災展」(中央図書館) 初公開の『横浜貿易新報 臨時号』など、震災直後の横浜の様子を伝える新聞を展示しました

移動図書館はまかぜ号（事業開始後 40 周年）、金沢・港北図書館（開館 30 周年）、緑・都筑図書館（開館 15 周年）で周年記念事業を実施しました。はまかぜ号の車両見学ツアー（移動図書館）、記念講演（金沢・緑・都筑図書館）、パネル展（都筑図書館）、「みんなの好きな本、すすめる本」の募集（港北図書館）などを行いました。

また「中央図書館所蔵資料に見る関東大震災展」（8 月 24 日～9 月 20 日、中央図書館）を開催したほか、調査資料課所蔵のパネルを地域図書館で巡回展示するなど、各図書館で、所蔵資料を活かした図書展示を実施しました。



(5) 「横浜市子ども読書活動推進計画」に基づき子どもの読書活動を推進します

ア 「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」を策定しました

平成 22 年度に策定された「第二次横浜市子ども読書活動推計画」及び「横浜市立図書館アクションプラン」を具体的に実施するために、「横浜市立図書館児童サービス 5 か年計画」を策定しました。

子どもの主体的な読書習慣の育成のために、子どもだけでなく、保護者や保育者への働きかけを進めます。また、保育所・幼稚園・学校等と連携し、ボランティアと協働して様々な子どもたちへの支援を実施します。

イ 子どもの読書活動の推進

子ども読書の日（4 月 23 日）から 6 月末まで、本を読んでクイズに答える“読書スタンプマラソン”を全館で実施しました。平成 22 年で 4 年連続の実施となります。夏休みにも図書館の仕事を体験する「一日図書館員」のほか、調べもの支援を目的とした講習（中央・港南・都筑図書館）や工作会（中・磯子・緑図書館）、「金沢図書館に小型ロボットがやってくる」（金沢図書館）など、子ども向けの事業を全館で実施しました。

さらに、横浜市教育委員会が、平成 22 年度から 11 月の第 1 金曜日を「はまっ子読書の日」と制定（※）したのを受けて、市立図書館でも関連事業を行いました。「はまっ子読書フェスティバル」（11 月 6 日、中央図書館）のほか、各図書館で特別おはなし会や、市民の方からおすすめの本を募集する企画（都筑・瀬谷図書館）、「岡田淳原画展」（泉図書館）などを開催しました。

※ 国民読書年を契機とし、読書活動活性化・学校図書館活性化をめざして制定されました。

ウ 家庭・地域における読書活動への支援

家庭における読書活動を支援するとともに、大人にも読み聞かせの楽しさを感じていただくため、おはなし会を通じた読書推進活動を行いました。親子で参加しやすい土日に実施したり、大人向けのおはなし会も実施しました（港南・山内・瀬谷図書館）。閉館後の図書館でおはなし会ときもだめしを行う「夕涼み おはなし会」（8月20日、泉図書館）や、母国語でその国の絵本を読む「いろんなことばでおはなしかい」（2月20日、磯子図書館）も開催しました。

また、地域との連携を図り、保育所・幼稚園などに出向いての出張おはなし会、福祉保健センター主催の4か月児健診の待ち時間中に、健診に参加した親子に向けて絵本の読み聞かせも行いました。

エ 学校教育及び学校図書館への支援

市立図書館では、学校連携事業として学校教育への協力と子どもに身近な学校図書館充実への支援を行っています。平成22年度は、市立図書館を十分に活用していただけるよう、全館で「学校向けプログラム」を作成して学校に配布したほか、教職員用サイト Y・Y NET「Teacher's Room」に市立図書館のページを作成し、学校連携事業に関する情報発信に努めました。また、学校教育への協力のため、授業でよく利用されるテーマの本などをセットにして貸し出す「セット貸出」を新規サービスとして開始しました。学校で活動するボランティア支援のため、読み聞かせや本の展示方法・修理方法などの学校図書館環境整備研修や、活動相談の受け入れも行いました。

【平成22年度実績】 [() 内は平成21年度実績]

実施内容	延実施回数		延利用人数又は冊数	
調べ学習	58回	(40回)	615人	(893人)
図書館見学	359回	(183回)	8,545人	(6,930人)
読み聞かせ・ブックトーク	129回	(149回)	8,209人	(8,137人)
職業体験学習・職業インタビュー	253回	(163回)	862人	(538人)
教職員向け研修・レファレンス等	330回	(299回)	3,409人	(3,140人)
ボランティア向け研修・相談	171回		1,989人	
教職員向け貸出	852回	(719回)	21,837冊	(17,133冊)
セット貸出	37回	(新規)	1,420冊	(新規)

オ 読み聞かせ等講習の実施

家庭や地域での読み聞かせ活動を支援するため、保護者や、地域で活動するボランティア、保育者に向けた講習を実施しました。

市立図書館全体で、市内で活動するボランティアを支援するための取組として、絵本の読み聞かせとストーリーテリングの連続講座「おはなしボランティア講座」を、平成22年度も開催しました（会場：鶴見・金沢・港南・都筑・緑・神奈川図書館 計6館）。この講座は、外部講師による講義に加えて、司書が実習指導や関連資料紹介を行うもので、毎年定員を上回る応募があり、受講者からの継続実施の要望が高い事業です。そのほか、中央図書館及び地域図書館が独自に行う講座も開催しました。また保育所、各区の子育て支援拠点などへ、司書講師の派遣も行いました。

(6) 市民や外部機関と連携し協働を進めます

ア 協働の仕組みづくり

平成 22 年度も、市民参加の仕組みづくりを進めました。地域図書館 17 館で計 44 回利用者会議等を開催しました。また、市立図書館での修理ボランティア活動を進めるため、本の修理講座を開催しました。受講後、参加者には、講座の会場となった図書館での修理活動を担っていただいています。

このような取組を経て、平成 22 年度は、事業（おはなし会、検索機講座など）や運営面（図書の修理、書架整理など）のいずれかの形で、全館でボランティアが活動しています。

【平成 22 年度ボランティア活動実績】 [() 内は平成 21 年度実績]

活動内容		活動館数	延件数または日数	備考
おはなし会	司書との協働	11 館(7 館)	253 件(164 件)	
	ボランティアのみ	12 館(6 館)	264 件(183 件)	
図書修理		11 館(6 館)	422 日(223 日)	総修理冊数 8,073 冊(3,518 冊)
書架整理		4 館(2 館)	184 日(一)	活動人数 延 482 人(148 人)
環境整備		3 館(2 館)	180 日(一)	(内容) 生け花の展示等
自主企画事業・その他		9 館(2 館)	71 日(一)	(内容) 事業の準備・実施、友の会等活動

イ 企業との連携・協働

平成 22 年度は、横浜をホームタウンとして活動するプロサッカーチーム「横浜 F・マリノス」と各種事業を協働で開催しました。国民読書年事業のポスターや、図書館の事業で渡す特製「しおり」に選手の写真などを掲載したほか、関連パネルや選手のユニフォームなどを展示した「この街には、横浜 F・マリノスがある。」(5 月 7 日～5 月 30 日、中央図書館)、横浜 F・マリノスのコーチによる食育講座「スポーツキッズにとっての『食』」(10 月 30 日、中央図書館)を開催しました。



展示『この街には、横浜 F・マリノスがある。』

さらに、サッカー観戦会場に移動図書館が出張した「移動図書館はまかぜ号がトリコロールランドにやってきた！」(11 月 14 日、日産スタジアム)では閲覧スペースを設け、来場者に屋外での読書を楽しんでいただきました。また、読書クイズを行い、回答者には横浜 F・マリノスと協働作成した「マリノスケ読書ノート」を配布しました。

ウ 他機関(大学・研究機関・行政機関など)との連携

中央図書館を会場とし、市内大学主催の市民講座「よこはま大学開港塾 2010」を計 7 回実施しました。図書館では講座関連図書を集めたブックコーナーを会場内に設けたほか、各講師の著作リストの作成・配布を行いました。

また、独立行政法人理化学研究所横浜研究所の設立 10 周年記念行事である、サイエンス・カフェとサイエンス・セミナーを協働で実施しました(8 月 28 日、10 月 3 日、10 月 9 日、中央図書館)。サイエンス・カフェは講演会等と異なり、話題提供者である科学者と市民が気軽に語り合う場を提供するもので、市立図書館初の試みとなります。第一線の研究者との知的刺激に満ちた対話は、参加者からご好評をいただきました。

さらに地域の一員として、区役所や地域の機関・団体との連携も進めています。平成 22 年度は環境創造局の事業で小学生を対象とし、遊びを通じて自然を学ぶイベント「横浜みどりアップ計画(新

規・拡充施策) 森の中のプレイパーク事業」を4館(港南・保土ヶ谷・金沢・栄図書館)で行うなど、協働を進めました。



展示「絵ハガキで訪ねる」(港北図書館)
(大倉精神文化研究所との共同企画)
絵葉書約100枚を展示しました



展示「金沢図書館に金沢動物園がやってきた！」(金沢図書館)(協働:金沢動物園)動物の骨格標本などを図書館の本と一緒に展示しました



「森の中のプレイパーク事業」
(会場:川辺公園及び保土ヶ谷図書館)(協働・写真提供:環境創造局みどりアップ推進課)
身近な自然を使ったゲームをしたのち図書館の本で植物のことを調べました

(7) その他のトピックス

ア 財源確保のための取組(広告事業)

平成22年度の図書館ホームページの「バナー広告」による広告料収入は、過去最高(約260万円)となりました。「大学案内パンフレットラック」は、設置図書館が1館増え、15館になりました。

また、中央図書館では平成22年6月から「広告付き周辺案内地図」を設置しました。図書館が独自にリースした場合に比べて、年間40万円以上の節減効果があります。

市立図書館では、引き続き広告事業等により、自主財源の確保に努めるとともに、管理運営経費の節減に積極的に取り組みます。



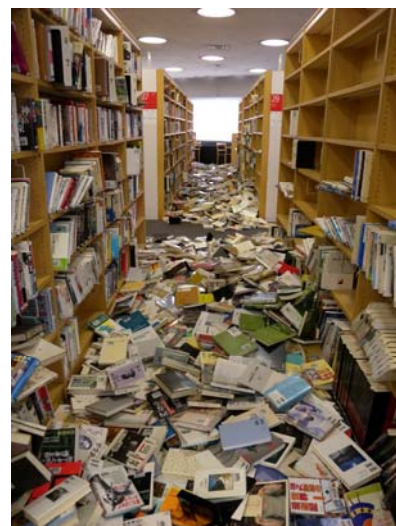
周辺案内地図
(中央図書館1階入口)

イ 東日本大震災への対応

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の当日は書架から本が落ち、当日、翌日及び3月14日の臨時休館を余儀なくされました。震災後は深刻な電力不足と計画停電の影響で開館時間を短縮しました(※1)。

また、燃料不足により図書館連絡車(※2)の運行が滞り、物流量を少なくするために新規の予約申込受付を停止しました(3月16日~28日、29日午前9時30分再開)。

中央図書館では震災関連リンク集をホームページ上に作成し、図書館海援隊の活動を通じて被災地からのレファレンスを受け付けました。また市内の一時避難場所となっている施設に図書を提供し、図書コーナーを設置しました。地域図書館では地震関連図書の展示や計画停電の予定、水道水に含まれる放射性物質の測定結果などの情報を掲示するなど市民への情報提供に努め、被災者への図書館カードの発行なども実施しました。



震災直後の中央図書館の様子
(5階フロア)

- ※1 3月15日から4月15日まで、全館で午後5時までに開館時間を短縮。通常は、火曜日から金曜日まで、中央図書館・山内図書館は午後8時30分、地域図書館は午後7時まで開館。
- ※2 図書館連絡車…図書館間を運行し図書館資料を配送する車。

(8) 関連記事

『毎日新聞 (横浜版)』2010年 (平成22年)

7月3日 (土) 25面

移動図書館はまかせ号事業について

(著作権保護のため、新聞記事のホームページへの掲載は行っていません。)

『神奈川新聞』

2010年 (平成22年) 5月26日 (水) 20面

[神奈川新聞社提供] (無断転載不可)

11月第1金曜

「読書の日」に

市教委制定

横浜市教育委員会は本年度から、11月の第1金曜日を「はまっ子読書の日」と制定すると発表した。この日には、すべての市立学校で、読書集会や図書館ラリ―など、子どもが読書に親しむ事業を行う。

2010年は「国民読書年」。これに合わせて制定した。金曜日と連続する第1土曜・日曜日は、数年前から行っている市立中央図書館での「はまっ子読書フェスティバル」と、各区の地域図書館でのそれにならんだイベントを行う。

11月の第1金曜日となったのは①読書週間(10月27日~11月9日)の間になる②学校の休業日③土日のフェスティバルへ続く金曜日

—といった理由から。

ことしの「はまっ子読書の日」は11月5日。各市立小中高校501校で、各校が計画したお話会や朗読集会などの催しが開かれる。

6、7日のフェスティバルのほか、6日には中央図書館で小学校の児童、保護者、教職員による取り組みの発表会と、中学校の生徒、保護者による読書座談会も開かれる。

読書啓発ポスターや標語も、6~7月に募集する予定という。

市内の全18館休館



書架から本が落ち床に散乱した横浜市中央図書館
11日 (横浜市教委提供)

横浜市内に18ある市立図書館も、東日本大震災の影響で12日は全館が臨時休館した。

特に被害の大きかった中央図書館では、激しい揺れで書架から本が次々と落ちて、床を埋め尽くし一足の踏み場もないほど(同館職員)。停電や、エレベーターの停止などの被害が出た図書館もあったという。

『神奈川新聞』

2011年 (平成23年) 3月13日 (日)

24面 [神奈川新聞社提供]

(無断転載不可)

惨状生々しく

関東大震災(1923年9月1日)で社屋が倒壊、約半年間にわたり事実上休刊を余儀なくされた横浜貿易新報(通称「横貿」)は神奈川新聞の前身)が発行した臨時紙が、日の目を見ることになった。横浜市中央図書館と横浜市史資料室が収蔵庫に眠っていた臨時紙31分を発掘整理、24日から企画展示される。震災直後の惨状が生々しく報じられている上、国内での所在が確認されておらず、貴重な資料として注目される。

同図書館所蔵の臨時紙は、同年9月13日付の「臨時第1号」から10月30日付の「臨時第47号」まで(10月14・29日付は欠)。現在の一般紙と同じA4ランゲットの夕刊。当初は

関東大震災で倒壊

第1面のみだったが、9月21日付第9号から裏面にも記事掲載した2ページ建てとなった。
13日付臨時第1号は「我横浜市は全く壊れつて仕舞った」と書きだし、「残存の心血を傾注して」横浜の再建を期す決意を表明して市民を鼓舞する横貿社長・三宅馨の署名記事がトップ。「吉田橋の下で 三 四千人の死者」「バラック二万戸 応急建設中」「疑似コレラ一名発生す」など、震災直後の状況を反映する見出しと記事が、ぎっしり並んでいる。

「横貿」臨時紙を公開

24日から企画展示 横浜市中央図書館

臨時第2号以降も、市民らによる被災の体験談や一部地域での給水の実施、食糧・日用品の販売状況など日常生活にかかわるきめ細かい情報を掲載。21日付第9号には「伊勢佐木町の復興 仮小屋で営業開始」の記事を紹介するなど、官民挙げての復興への活動を伝えている。
臨時紙は、横浜市史資料室が今春



横浜貿易新報の臨時第1号

の企画展「横浜・関東大震災の記憶」を開催する準備過程で所在が確認され、整理・調査が進められた。
同図書館などの調べでは横貿の臨時紙は国会図書館や各大学図書館にも存在せず、希少価値が高いとみている。ただ、どのような経緯で中央図書館が収蔵していたか、資料がな

く不明という。
震災直後、市民広報用として横浜市が横貿、横浜毎朝新聞など横浜3紙の協力のもと、横浜市日報(同図書館で第49号まで保存)を発行した。震災で社屋が倒壊した横貿は全社員を解散し、嘱託20人で臨時紙を発行、6ページ建ての復刊までに5カ月間を要している。
企画展「中央図書館所蔵資料に見る関東大震災」は24日から9月6日まで、中央図書館3階の横浜資料コーナーで開催。横浜市日報、横浜市史資料室による報告書「横浜・関東大震災の記憶」なども公開される。

『産経新聞(神奈川版)』2010年(平成22年)11月10日(水)19面(無断転載・複写不可)

小学生に人気の本、寄贈を募集

横浜市は、市内の小学生に人気の高い、150作品の本の寄贈を募集している。市内18カ所の市立図書館で昨年、市内の小学生を対象に、面白かった本をアンケート調査し、人気の高かった作品を「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」として選定した。これらの本は利用者が多いため、図書館によっては借りにくい状況という。市は「寄贈を通じて所蔵数を増やし、利用状況を改善したい」としている。
150作品に選ばれたのは、やなせたかしさんの「あんぱんまん」シリーズや、ミヒャエル・エンデの「モモ」など。寄贈は各市立図書館の窓口などで、12月21日まで受け付けている。150作品のリストは市立図書館のホームページに掲載されている。問い合わせは☎045・262・7338。

ユニホームやスパイクなどで横浜F・マリノスの魅力を伝える資料展
 〓西区老松町の市中央図書館



W杯代表スパイクも

市中央図書館でマリノス展

サッカーJリーグの横浜F・マリノスの資料展が、横浜西区老松町の市中央図書館で開かれていた。実物のユニホームや選手のスパイク、年表や写真など約300点から、チームの魅力や足跡を知ることができ、30日まで。無料。

地域貢献活動の一環として、チームを運営する横浜マリノス株式会社と図書館が主催した。前身の日産自動車サッカー部が創部された1972年から2009年までの歩みを記した年表、Jリーグが開業した93年当時の選手が集まった写真、今シーズンのホームユニホームなどチームに関する資料のほか、1カ月後に迫ったワールドカップ(W杯)南アフリカ大会の日本代表メンバーに選ばれた中村俊輔さんの伝記、中沢佑二さんが実際に

に使用したスパイクなど、選手の個性が分かる物も展示。選手によるサッカー教室などの地域活動を取り上げた映像も放映している。同市保土ヶ谷区の無職村田譲治さん(79)は「マリノスは地域に根付いた特別な存在。大ファンの長男と一緒に、わたしもよくスタジアムに足を運んだ。今シーズンこそ優勝を」と期待を込めていた。

問い合わせは、図書館 ☎045(262)0050。

『タウンニュース(港南区版)』

2010年(平成22年)8月19日(木)

港南図書館「面白い本紹介します」

小学生の読書感想文対策に



「私たちが紹介します」と鈴江さん(左)と杉浦さん

夏休みの宿題「読書感想文」で読む本を探している小学生を対象に、横浜市港南図書館(港南区野庭町2-5)では8月24日(火)と25日(水)の2日間、図書館が学年別に適した本を紹介する催しを初めて実施する。

図書館とは、本の貸し出しや返却のほか、本や雑誌の注文、読書案内や読書活動推進のための各種催しなどを行う専門職員、港南図書館には現在6人の司書が在籍し、11万冊以上の本や資料を管理している。

港南図書館には例年、夏休みが終わりに近づく読書感想文に読む本を探している鈴江さんと杉浦さん。当日は、港南図書館司書のあらすじや面白い挿絵・写真を効果的に見せながら、

来館する子どもが増え、出しや返却のほか、本や雑誌の注文、読書案内や読書活動推進のための各種催しなどを行う専門職員、港南図書館には現在6人の司書が在籍し、11万冊以上の本や資料を管理している。

当日は、港南図書館司書のあらすじや面白い挿絵・写真を効果的に見せながら、

本の興味を持たせたい。当日は紹介された本を実際に借りることができる。

課題図書にこだわらず

鈴江さんは「物語は色んな人生を体験できる」とし、読む力のある子どもには物語やシリーズ作品を薦

める。一方杉浦さんは低学年や本が苦手な子どもには写真が多い本や絵本でも「いい」と説明。また、当日紹介した本の中で興味を持てなければ後日に個別対応もしてくれる。2人は読書

感想文について、「課題図書にこだわらず、自分が面白いと思った本を読み、感じたことを書くことが大事」と話していた。

この催しは24日と25日の2日間、午後2時から低学

年、3時から中学年、4時から高学年を対象に行う。各回30分、8タイトルを紹介する。8月18日より電話と窓口で受け付けている。申し込みは ☎045・841・5577、図書館

『タウンニュース(泉区版)』

2010年(平成22年)9月2日(木)

閉館後の図書館で夕涼みおはなし会に親子92人



読み聞かせに興味津々

泉図書館(金井英孝館長)で8月20日、「夕涼みおはなし会」が行われ、28組92人の幼児・小学生と保護者が訪れた。

子どもたちに本や読書の楽しみを知ってもらおうと、閉館後の図書館で行われた。

初試み。より雰囲気を出そうと明かりを落とし、職員が浴衣で対応。長谷川三津子さんが話す絵本・紙芝居の読みかきかせに、子どもたちは興味津々だった。

夏休みの思い出づくりや図書館に親しみを持ってもらおうと、きもだめしも行われた。真つ暗な図書館の2階にある机の上に置かれたプレセント用のハンカチを指したもので、懐中電灯の明かりだけを頼りに、親子で暗闇の中をそりそり歩いた。途中、怖さに叫ぶ子もいたが、楽しんで

初試み。より雰囲気を出そうと明かりを落とし、職員が浴衣で対応。長谷川三津子さんが話す絵本・紙芝居の読みかきかせに、子どもたちは興味津々だった。

夏休みの思い出づくりや図書館に親しみを持ってもらおうと、きもだめしも行われた。真つ暗な図書館の2階にある机の上に置かれたプレセント用のハンカチを指したもので、懐中電灯の明かりだけを頼りに、親子で暗闇の中をそりそり歩いた。途中、怖さに叫ぶ子もいたが、楽しんで

企画事業（一般向けイベント）について
（著作権保護のため、新聞記事のホームページへの掲載は行っていません。）

世界の物語に驚き

図書館で外国語おはなし会

磯子図書館（本多俊雄館長）で2月20日、「いろんな



海外の物語に興味津々

言葉でおはなし会」が開催された。

この会は、外国の人たちに母国語などでその国の絵本の朗読をしてもらい、子どもたちに海外の言葉や文化に関心を持ってもらうと行われた。

イの人たちが講師を務めた。話の中では、ベルーに日本神話の国づくりの場面に似た物語があることや、韓国では「おおかみと7匹の子ヤギ」にそっくりな昔話があることなどが紹介された。子どもだけでなく親たちも驚きの表情を見せた。

また、4カ国語でのじゃんけん大会や、各国の子ども用晴れ着の展示なども行われ、参加者たちは外国の雰囲気を楽しんでいた。

本牧の歴史辿るパネル展

中図書館 4月10日(日)まで

中図書館（中区本牧原16-1）ではパネル展「フェンスのあったころの本牧」を2階会議室で4月10日(日)まで開催している。

30年前まで米軍の接収地だった本牧。フェンスの向こうには洋風住宅が並び、英語の看板のショッピングセンターがあった。道路のフェンスを挟んで、

米軍本牧海浜住宅地区返還式（1982年）



本とアメリカが隣合わせだった歴史は、現在にも残る独特の地域性を生み出している。今回の企画では、米軍接収当時の写真や地図など横浜市中資料室や個人蔵の写真や地図などを展示し、本牧の歴史を辿る。

また戦後の懐かしい横浜のニュース映像（横浜市政ダイジェスト）の上映会も



道路のフェンスを挟んで接収地（右）と日本人住宅地域（左）（1969年）

開催。日時は3月24日(木)午前10時～正午（昭和27～30年のニュース映像）と3月27日(日)、午後2時～4時（昭和31～34年のニュース映像）。時間内は入場自由。開館時間は火～金曜日午前9時30分～午後7時、土・日・月曜日・祝日は午前9時30分～午後5時まで。問合せは同館 ☎045・621・6621まで。